

## 日本人類遺伝学会第23回大会記事 (1978)

### Proceedings of the 23rd Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, 1978

会 場 新潟市, ホテル・イタリヤ軒

会 期 昭和53年10月29日, 30日

大会会長 渡辺敏一教授

担当教室 新潟大学医学部衛生学教室

発 表 学会賞受賞講演

岡田善雄 (大阪大学): 細胞融合を用いた体細胞遺伝学の研究

特別講演 I

椿 忠雄 (新潟大学): 遺伝と神経疾患

特別講演 II

W.J. Schull (テキサス大学): 低酸素環境下における遺伝子ならびに酵素

シンポジウム

染色体異常の発生機序 司会 美甘和哉 (旭川医大)

一般演題 131 題

#### 第1日 (10月29日)

渡辺大会会長の開会の辞につづき, 午前には一般演題51題が発表された。午後は総会議事にはじまり, 特別講演 I が行われ, 引きつづきシンポジウムが行われた。さらに, 特別講演 II のあと記念撮影があり, 懇親会が開かれた。

#### 第2日 (10月30日)

午前中に一般演題41題が発表され, 午後は学会賞の受賞式, 同受賞講演が行われ, 引きつづき一般講演39題が発表された。

#### 評議員会

日 時: 昭和53年10月28日, 18:30~20:30

場 所: ホテル・イタリヤ軒

出席者: 34名, 議長は井上英二会長

#### 1. 報告事項

庶務, 会計, 編集についての会務経過について報告があったのち, 学会賞選考委員会, 遺伝相談ネットワーク委員会, 教育委員会, 日本医学会評議員会, 日本学術会議 IUBS 研究連絡委員会遺伝分科会, 国際人類遺伝学会常置委員会, 国際遺伝学連合, 遺伝子操作委員会, 科学研究費問題等について報告がなされた。

## 2. 協議事項

## (1) 会費値上げの件

学会財政状況逼迫の折から、一般会費を年額3,000円より5,000円に値上げすることが承認された。それにともない、外国人会員に対する会費を円建てとすることが了承された。

## (2) 次々期大会開催地と大会会長の件

昭和55年度大会開催地は仙台とし、多田啓也東北大学教授を推薦することに決定した。

## (3) 名誉会員推薦の件

名誉会員として、別記5名の方を推薦することを決定した（総会記事に記載の通りである）。

## (4) 理事補充の件

井上前理事の会長就任にともない、理事の補充について慎重審議の結果、理事選挙の折、次点者であった外村評議員を新理事として推薦することを決定した。

## 総会議事

## A. 報告事項

## 1) 庶務報告（日暮幹事）

## a) 会員の異動

昭昭52年12月31日現在、本会会員数と異動は下記の通りである。

	現在数	昭和52年度異動		
		入会	退会	増
普通会員	864	80	52	28
名誉会員	国外	2	0	2
	国内	8	2	0
外国会員	6	3	1	2
計	892	87	53	34

## b) 理事会

昭和53年9月30日と同年10月28日の計2回開催された。

## 2) 会計報告（外村幹事）

昭和52年度の会計報告は次の表の通りである。

取 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	3,707,727円	雑誌刊行費	3,146,354円
会費	2,258,000	雑誌発送費	276,456
論文掲載料	940,275	雑誌編集費	107,000
雑誌購読料	280,500	大会補助金	300,000
広告料	52,500	事務費	444,830
文部省科研費補助金	880,000	次年度繰越金	3,961,737
医師会助成金	100,000		
預金利子	17,375		
計	8,236,377	計	8,236,377

- 3) 監査報告 (藤木理事)  
上記の会計報告に誤りない旨報告された。
  - 4) 編集委員会 (岡島編集委員長)  
雑誌の刊行状況について報告された。
  - 5) 遺伝相談ネットワーク委員会 (半田委員長)  
今後の活動について検討中である。
  - 6) 人類遺伝教育委員会 (三輪委員長)  
昭和52年11月12日第1回委員会を開き、各委員の業務分担を決めた後、本邦各医科大学、医学部内にて行われている「人類遺伝学」に関する教育の実態状況の調査、欧米諸国での医学教育の中における人類遺伝学カリキュラムの資料収集等の活動を現在行いつつある旨、報告があった。
  - 7) 日本学術会議 IUBS 研究連絡委員会遺伝分科会 (岡島理事)  
日本学術会議第11期の活動の中に医学教育における遺伝学の問題を取り上げることとなり、本学会の教育委員会と連絡をとりながら検討を進めることになった。また、アメリカ遺伝学会から、遺伝学に関する historical materials の保存について申入れがあったので、日本遺伝学会が中心になって考えることになった。
  - 8) 日本医学会評議員会 (中島理事)  
日本医学会総会の進行状況等について報告があった。
  - 9) 国際人類遺伝学会常置委員会 (井上会長)  
今回の国際人類遺伝学会は、1981年9月13日より20日まで、エルサレムにて開催されることが決定した旨報告があった。
  - 10) 国際遺伝学連合 (岡島理事)  
第14回国際遺伝学会議は、昭和53年8月にモスクワで開催された。次の会議は1983年にインドで開かれる。
  - 11) 学会賞選考委員会 (井上会長)  
HVJ を用いた細胞融合の発見、色素性乾皮症の細胞学的研究によって、わが国および世界の人類遺伝学の発展に貢献した岡田善雄氏に贈呈することに決定した旨、報告があった。
  - 12) 遺伝子操作委員会 (井上会長)  
別項記載のように、新たに遺伝子操作協議会 (仮称) が発足するにともない、本学会より外村品教授を委員として推薦し、分担金を負担することになった。
  - 13) 次期大会 (井上会長)  
次期大会は、昭和54年11月3日、4日、5日、日本都市センターにて開催される旨、報告があった。
- B. 承認事項
- 1) 会費値上げの件  
一般会員会費は年額3,000円より5,000円に変更すること、ならびに外国人会員の会費は円建てとすることが提案され、承認された。
  - 2) 次々期大会に関する件  
昭和55年度大会開催地は仙台とし、東北大学の多田啓也教授を大会会長とすることが承認された。
  - 3) 名誉会員の件  
吉川秀男氏、鈴木安恒氏、藤井祐一氏、高原滋夫氏、ならびに村上氏広氏を第27, 28, 29, 30,

31人目の国内名誉会員に推薦することが提案され、承認された。

4) 理事補充の件

井上前理事の会長就任にともない、欠員となった理事の補充に関し慎重審議の結果、理事選挙の折、次点者であった外村晶評議員(会計担当幹事)を新理事に補うことが提案され、承認された。なお、外村会計幹事の理事就任により、当分の間外村理事が会計幹事を兼任することも承認された。

**理 事 会**

日 時：昭和53年10月28日 16：00～18：00

場 所：ホテル・イタリヤ軒（新潟市）

出席者：井上英二会長、井関尚栄前会長、渡辺厳一大会会長、岡島道夫・中島章・半田順俊・藤木典生各理事、外村晶・笹月健彦・日暮真各幹事

1. 報告事項

庶務，会計，編集，各種委員会等の報告がなされた。また、次々期大会会長について多田啓也氏より内諾が得られた旨報告があった。

2. 協議事項

理事補充の件，名誉会員の追加の件等について協議がなされた。

(庶務幹事 日暮 真)